

## あきる野市指定地域密着型通所介護事業者に対する指導検査に関する基準

項目	基本的考え方	観 点	関係法令等	評価事項	評価
第1 基本方針	<p>(1) 指定地域密着型通所介護の事業は、要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう生活機能の維持又は向上を目指し、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るものでなければならない。</p>	<p>1 利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るものでなければならない。</p>	市条例第59条の2	<p>1 利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るものになっていない。</p>	C
第2 人員に関する基準	<p>1 従業者の員数</p> <p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者が指定地域密着型通所介護事業所ごとに置くべき地域密着型通所介護従業者の員数は、次のとおりとする。</p> <p>ア 生活相談員 指定地域密着型通所介護の提供日ごとに、当該指定地域密着型通所介護を提供している時間帯に生活相談員（専ら当該指定地域密着型通所介護の提供に当たる者に限る。）が勤務している時間数の合計数を当該指定地域密着型通所介護を提供している時間帯の時間数で除して得た数が1以上確保されるために必要と認められる数</p> <p>イ 看護師又は准看護師（以下「看護職員」という。） 指定地域密着型通所介護の単位ごとに、専ら当該指定地域密着型通所介護の提供に当たる看護職員が1以上確保されるために必要と認められる数</p> <p>ウ 介護職員 指定地域密着型通所介護の単位ごとに、当該指定地域密着型通所介護を提供している時間帯に介護職員（専ら当該指定地域密着型通所介護の提供に当たる者に限る。）が勤務している時間数の合計数を当該指定地域密着型通所介護を提供している時間数（以下「提供単位時間数」という。）で除して得た数が利用者（当該指定地域密着型通所介護事業者が第1号通所事業（介護予防通所介護に相当するものとして市が定めるものに限る。）に係る指定事業者の指定を併せて受け、かつ、指定地域密着型通所介護の事業と当該第1号通所事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における指定地域密着型通所介護又は当該第1号通所事業の利用者。以下同じ。）の数が15人までの場合にあつては1以上、15人を超える場合にあつては15人を超える部分の数を5で除して得た数に1を加えた数以上確保されるために必要と認められる数</p> <p>エ 機能訓練指導員 機能訓練指導員を1以上確保していること。</p> <p>※1 8時間以上9時間未満の指定地域密着型通所介護の前後に連続して延長サービスを行う場合にあつては、事業所の実情に応じて適当数の従業者を配置するものとする。</p>	<p>1 生活相談員は時間帯を通じて1以上確保されているか。</p> <p>2 看護職員時間帯を通じて1以上確保されているか。</p> <p>3 介護職員は時間帯を通じて必要な人員が確保されているか。</p> <p>4 機能訓練指導員は1以上確保されているか。</p>	市条例第59条の3第1項 解釈通知第3の二の二の1(1), (2)	<p>1 生活相談員が時間帯を通じて1以上確保されていない。</p> <p>2 看護職員は時間帯を通じて1以上確保されていない。</p> <p>3 介護職員は時間帯を通じて必要な人員が確保されていない。</p> <p>4 機能訓練指導員は1以上確保されていない。</p>	C C C C

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
	<p>※2 生活相談員については、指定地域密着型通所介護の単位の数にかかわらず、次の計算式のとおり指定地域密着型通所介護事業所における提供時間数に応じた生活相談員の配置が必要となるものである。ここでいう提供時間数とは、当該事業所におけるサービス提供開始時刻から終了時刻まで（サービスが提供されていない時間帯を除く。）とする。</p> <p>（確保すべき生活相談員の勤務延時間数の計算式）  提供日ごとに確保すべき勤務延時間数＝提供時間数</p> <p>例えば、1単位の指定地域密着型通所介護を実施している事業所の提供時間数を6時間とした場合、生活相談員の勤務延時間数を、提供時間数である6時間で除して得た数が1以上となるよう確保すればよいことから、従業者の員数にかかわらず6時間の勤務延時間数分の配置が必要となる。また、例えば午前9時から正午、午後1時から午後6時の2単位の指定地域密着型通所介護を実施している事業所の場合、当該事業所におけるサービス提供時間は午前9時から午後6時（正午から午後1時までを除く。）となり、提供時間数は8時間となることから、従業者の員数にかかわらず8時間の勤務延時間数分の配置が必要となる。</p> <p>※3 介護職員（（2）の適用を受ける場合の看護職員又は介護職員を含む。）については、指定地域密着型通所介護の単位ごとに、提供時間数に応じた配置が必要となるものであり、確保すべき勤務延時間数は、次の計算式のとおり提供時間数及び利用者数から算出される。なお、ここでいう提供時間数とは、当該単位における平均提供時間数（利用者ごとの提供時間数の合計を利用者数で除して得た数）とする。</p> <p>（確保すべき介護職員の勤務延時間数の計算式）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数15人まで  単位ごとに確保すべき勤務延時間数＝平均提供時間数</li> <li>・利用者数16人以上  単位ごとに確保すべき勤務延時間数＝（利用者数－15）÷5＋1）×平均提供時間数</li> </ul> <p>平均提供時間数＝利用者ごとの提供時間数の合計÷利用者数</p> <p>例えば、利用者数18人、提供時間数を5時間とした場合、<math>(18-15) \div 5 + 1 = 1.6</math>となり、5時間の勤務延時間数を1.6名分確保すればよいことから、従業員の員数にかかわらず、<math>5 \times 1.6 = 8</math>時間の勤務延時間数分の人員配置が必要となる。利用者数と平均提供時間数に応じて確保すべき勤務延時間数の具体例を別表1に示すものとする。</p> <p>なお、介護職員については、指定地域密着型通所介護の単位ごとに常時1名以上確保することとされているが、これは、介護職員が常に確保されるよう必要な配置を行うよう定めたものであり、例えば、計算式により算出した確保すべき勤務延時間数が、当該事業所におけるサービス提供開始時刻から終了時刻までの時間数に満たない場合であっても、常時1名以上が確保されるよう配置を行う必要があることに留意すること。</p> <p>また、介護職員は、利用者の処遇に支障がない場合は他の指定地域密着型通所介護の単位の介護職員として従事することができることとされたことから、例えば複数の単位の指定地域密着型通所介護を同じ時間帯に実施している場合、単位ごとに介護職員等が常に1名以上確保されている限りにおいては、単位を超えて柔軟な配置が可能である。</p>				

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価																																																																																																																																																	
	<p>【別表1 地域密着型通所介護の人員配置基準を満たすために必要となる介護職員の勤務時間数の具体例（単位ごと）】</p> <table border="1" data-bbox="280 323 1111 788"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="7">平均提供時間数</th> </tr> <tr> <th>3.0</th> <th>4.0</th> <th>5.0</th> <th>6.0</th> <th>7.0</th> <th>8.0</th> <th>9.0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="16" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">利用者</td> <td>5</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>3.0</td> <td>4.0</td> <td>5.0</td> <td>6.0</td> <td>7.0</td> <td>8.0</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>3.0</td> <td>4.0</td> <td>5.0</td> <td>6.0</td> <td>7.0</td> <td>8.0</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>3.0</td> <td>4.0</td> <td>5.0</td> <td>6.0</td> <td>7.0</td> <td>8.0</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>3.6</td> <td>4.8</td> <td>6.0</td> <td>7.2</td> <td>8.4</td> <td>9.6</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>4.2</td> <td>5.6</td> <td>7.0</td> <td>8.4</td> <td>9.8</td> <td>11.2</td> <td>12.6</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>4.8</td> <td>6.4</td> <td>8.0</td> <td>9.6</td> <td>11.2</td> <td>12.8</td> <td>14.4</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>5.4</td> <td>7.2</td> <td>9.0</td> <td>10.8</td> <td>12.6</td> <td>14.4</td> <td>16.2</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>6.0</td> <td>8.0</td> <td>10.0</td> <td>12.0</td> <td>14.0</td> <td>16.0</td> <td>18.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 当該指定地域密着型通所介護事業所の利用定員（当該指定地域密着型通所介護事業所において同時に指定地域密着型通所介護の提供を受けることができる利用者の数の上限をいう。以下同じ。）が10人以下である場合にあっては、(1)の規定にかかわらず、看護職員及び介護職員の員数を、指定地域密着型通所介護の単位ごとに、当該指定地域密着型通所介護を提供している時間帯に看護職員又は介護職員（いずれも専ら当該指定地域密着型通所介護の提供に当たる者に限る。）が勤務している時間数の合計数を提供単位時間数で除して得た数が1以上確保されるために必要と認められる数とすることができる。</p> <p>(3) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の単位ごとに、介護職員（(2)の適用を受ける場合にあっては、(2)の看護職員又は介護職員。(4)及び(7)において同じ。）を、常時1人以上当該指定地域密着型通所介護に従事させなければならない。</p> <p>(4) (1)及び(2)の規定にかかわらず、介護職員は、利用者の処遇に支障がない場合は、他の指定地域密着型通所介護の単位の介護職員として従事することができるものとする。</p> <p>(5) (1)から(4)までの指定地域密着型通所介護の単位は、指定地域密着型通所介護であってその提供が同時に1又は複数の利用者に対して一体的に行われるものをいう。</p>			平均提供時間数							3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	利用者	5	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	15	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	16	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	3.6	4.8	6.0	7.2	8.4	9.6	10.8	17	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	4.2	5.6	7.0	8.4	9.8	11.2	12.6	18	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	4.8	6.4	8.0	9.6	11.2	12.8	14.4	19	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	5.4	7.2	9.0	10.8	12.6	14.4	16.2	20	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	人	6.0	8.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	<p>1 利用定員が10人以下の場合に看護職員及び介護職員が1以上確保されているか。</p> <p>1 介護職員を常時1人以上従事させているか。</p> <p>2 (2)適用の場合は、看護職員又は介護職員を常時1人以上従事させているか。</p> <p>1 利用者の処遇に支障はないか。</p> <p>1 単位は適正であるか。</p>	<p>市条例第59条の3第2項</p> <p>市条例第59条の3第3項</p> <p>市条例第59条の3第4項</p> <p>市条例第59条の3第5項</p>	<p>1 看護職員及び介護職員が1以上確保されていない。</p> <p>1 介護職員を常時1人以上従事させていない。</p> <p>2 看護職員又は介護職員を常時1人以上従事させていない。</p> <p>1 利用者の処遇に支障がある。</p> <p>1 単位が不適正である。</p>	<p>C</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>C</p>
				平均提供時間数																																																																																																																																																		
		3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0																																																																																																																																														
利用者	5	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0																																																																																																																																														
	10	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0																																																																																																																																														
	15	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0																																																																																																																																														
	16	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	3.6	4.8	6.0	7.2	8.4	9.6	10.8																																																																																																																																														
	17	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	4.2	5.6	7.0	8.4	9.8	11.2	12.6																																																																																																																																														
	18	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	4.8	6.4	8.0	9.6	11.2	12.8	14.4																																																																																																																																														
	19	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	5.4	7.2	9.0	10.8	12.6	14.4	16.2																																																																																																																																														
	20	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間																																																																																																																																														
	人	6.0	8.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0																																																																																																																																														

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
2 管理者	<p>(6) 機能訓練指導員は、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者とし、当該指定地域密着型通所介護事業所の他の職務に従事することができるものとする。 ※「訓練を行う能力を有する者」とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師又はきゅう師の資格を有する者（はり師及びきゅう師は、6月以上機能訓練指導に従事した経験を有する者に限る。）</p>	1 訓練を行う能力を有する者であるか。	市条例第59条の3第6項 解釈通知第3の二の二の1(3)	1 訓練を行う能力を有する者でない。	C
	<p>(7) 生活相談員又は介護職員のうち1人以上は、常勤でなければならない。</p>	1 1人以上は常勤であるか。	市条例第59条の3第7項	1 常勤が1人以上いない。	C
	<p>(8) 指定地域密着型通所介護事業者が第1号通所事業に係る指定事業者の指定を併せて受け、かつ、指定地域密着型通所介護の事業と当該第1号通所事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、市の定める当該第1号通所事業の人員に関する基準を満たすことをもって、(1)から(7)に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。</p>	1 第1号通所事業の人員基準を満たし、(1)～(7)の基準を満たすとみなすことができるか。	市条例第59条の3第8項	1 第1号通所事業の人員基準を満たしておらず、(1)～(7)の基準を満たすとみなせない。	C
2 管理者	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護事業所ごとに専らその職務に従事する常勤の管理者を置かなければならない。ただし、指定地域密着型通所介護事業所の管理上支障がない場合は、当該指定地域密着型通所介護事業所の他の職務に従事し、又は同一敷地内にある他の事業所、施設等の職務に従事することができるものとする。</p>	1 常勤の管理者を置いているか。	市条例第59条の4 解釈通知第3の二の二の1(4)	1 常勤の管理者を置いていない。	C
第3 設備に関する基準					
1 設備及び備品等	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業所は、食堂、機能訓練室、静養室、相談室及び事務室を有するほか、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに指定地域密着型通所介護の提供に必要なその他の設備及び備品等を備えなければならない。</p> <p>(2) (1)に掲げる設備の基準は、次のとおりとする。 ア 食堂及び機能訓練室 (ア) 食堂及び機能訓練室は、それぞれ必要な広さを有するものとし、その合計した面積は、3平方メートルに利用定員を乗じて得た面積以上とすること。 (イ) (ア)にかかわらず、食堂及び機能訓練室は、食事の提供の際にはその提供に支障がない広さを確保でき、かつ、機能訓練を行う際にはその実施に支障がない広さを確保できる場合にあっては、同一の場所とすることができる。 イ 相談室 遮蔽物の設置等により相談の内容が漏えいしないよう配慮されていること。</p> <p>(3) (1)に掲げる設備は、専ら当該指定地域密着型通所介護の事業の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する指定地域密着型通所介護の提供に支障がない場合は、この限りでない。</p>	<p>1 必要な設備等を備えているか。</p> <p>1 設備の基準を満たしているか。</p> <p>1 設備は専ら事業の用に供するものか。</p>	<p>市条例第59条の5第1項 解釈通知第3の二の二の2(1),(3)</p> <p>市条例第59条の5第2項 解釈通知第3の二の二の2(2)</p> <p>市条例第59条の5第3項 解釈通知第3の二の二の2(4)</p>	<p>1 必要な設備等を備えていない。</p> <p>1 設備の基準を満たしていない。</p> <p>1 設備は専ら事業の用に供するものでない。</p>	<p>C</p> <p>C</p> <p>C</p>

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
	<p>(4) (3) ただし書の場合（指定地域密着型通所介護事業者が（1）に掲げる設備を利用し、夜間及び深夜に指定地域密着型通所介護以外のサービスを提供する場合に限る。）には、当該サービスの内容を当該サービスの提供の開始前に市長に届け出るものとする。</p> <p>(5) 指定地域密着型通所介護事業者が第1号通所事業に係る指定事業者の指定を併せて受け、かつ、指定地域密着型通所介護の事業と当該第1号通所事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、市の定める当該第1号通所事業の設備に関する基準を満たすことをもって、（1）から（3）までに規定する基準を満たしているものとみなすことができる。</p>	<p>1 サービス内容を市長に届け出ているか。</p> <p>1 第1号通所事業の設備基準を満たし、（1）～（3）の基準を満たすとみなすことができるか。</p>	<p>市条例第59条の5第4項 解釈通知第3の二の二の2(5)</p> <p>市条例第59条の5第5項</p>	<p>1 サービス内容を市長に届け出ているか。</p> <p>1 第1号通所事業の設備基準を満たしておらず、（1）～（3）の基準を満たすとみなせない。</p>	<p>C</p> <p>C</p>
<p>第4 運営に関する基準</p> <p>1 内容及び手続の説明及び同意</p> <p>2 提供拒否の禁止</p> <p>3 サービス提供困難時の対応</p> <p>4 受給資格等の確認</p>	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、運営規程の概要、地域密着型通所介護従業者の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる次の重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について利用申込者の同意を得なければならない。</p> <p>ア 運営規程の概要 イ 従業者の勤務体制 ウ 事故発生時の対応 エ 苦情処理体制等 オ 提供するサービスの第三者評価の実施状況（実施の有無、実施した直近の年月日、実施した評価機関の名称、評価結果の開示状況）等</p> <p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、正当な理由なく指定地域密着型通所介護の提供を拒んではならない。</p> <p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、当該指定地域密着型通所介護事業所の通常の事業の実施地域（当該事業所が通常時に当該サービスを提供する地域をいう。以下同じ。）等を勘案し、利用申込者に対し自ら適切な指定地域密着型通所介護を提供することが困難であると認める場合は、当該利用申込者に係る指定居宅介護支援事業者への連絡、適当な他の指定地域密着型通所介護事業者等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じなければならない。</p> <p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定の有無及び要介護認定の有効期間を確かめるものとする。</p>	<p>1 重要事項を記した文書を交付して説明を行い、同意を得ているか。</p> <p>1 地域密着型通所介護の提供を拒んでいないか。</p> <p>1 必要な措置を速やかに講じているか。</p> <p>1 利用者が提示する被保険者証を確認しているか。</p>	<p>市条例第59条の20 (第9条第1項準用)  解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(2)準用)</p> <p>市条例第59条の20 (第10条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(3)準用)</p> <p>市条例第59条の20 (第11条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(4)準用)</p> <p>市条例第59条の20 (第12条第1項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(5)①準用)</p>	<p>1 重要事項を記した文書を交付して説明を行い、同意を得ていない。</p> <p>2 重要事項の記載が不十分。</p> <p>1 地域密着型通所介護の提供を拒んでいる。</p> <p>1 必要な措置を速やかに講じていない。</p> <p>1 利用者が提示する被保険者証を確認していない。</p>	<p>C</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>C</p>

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、(1)の被保険者証に、認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、指定地域密着型通所介護を提供するように努めなければならない。	1 認定審査意見に配慮して、サービスの提供に努めているか。	市条例第59条の20 (第12条第2項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(5)②準用)	1 認定審査意見に配慮して、サービスの提供に努めていない。	B
5 要介護認定の申請に係る援助	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の提供の開始に際し、要介護認定を受けていない利用申込者については、要介護認定の申請が既に行われているかどうかを確認し、申請が行われていない場合は、当該利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行わなければならない。	1 必要な援助を行っているか。	市条例第59条の20 (第13条第1項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(6)①準用)	1 必要な援助を行っていない。	C
	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定居宅介護支援が利用者に対して行われていない等の場合であって必要と認めるときは、要介護認定の更新の申請が、遅くとも当該利用者が受けている要介護認定の有効期間が終了する日の30日前までに行われるよう、必要な援助を行わなければならない。	1 必要な援助を行っているか。	市条例第59条の20 (第13条第2項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(6)②準用)	1 必要な援助を行っていない。	C
6 心身の状況等の把握	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の提供に当たっては、利用者に係る指定居宅介護支援事業者が開催するサービス担当者会議等を通じて、利用者の心身の状況、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。	1 サービス担当者会議等を通じて利用者の心身の状況等の把握に努めているか。	市条例第59条の6	1 サービス担当者会議等を通じて利用者の心身の状況等の把握に努めていない。	B
7 指定居宅介護支援事業者等との連携	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護を提供するに当たっては、指定居宅介護支援事業者その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。	1 密接な連携に努めているか。	市条例第59条の20 (第15条第1項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(7)準用)	1 密接な連携に努めていない。	B
	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、当該利用者に係る指定居宅介護支援事業者に対する情報の提供及び保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。	1 密接な連携に努めているか。	市条例第59条の20 (第15条第2項準用)	1 密接な連携に努めていない。	B
8 法定代理受領サービスの提供を受けるための援助	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の提供の開始に際し、利用申込者が施行規則第65条の4各号のいずれにも該当しないときは、当該利用申込者又はその家族に対し、居宅サービス計画の作成を指定居宅介護支援事業者に依頼する旨を市に対して届け出ること等により、指定地域密着型通所介護の提供を法定代理受領サービスとして受けることができる旨を説明すること、指定居宅介護支援事業者に関する情報を提供することその他の法定代理受領サービスを行うために必要な援助を行わなければならない。	1 法定代理受領ができる旨を説明し、必要な援助を行っているか。	市条例第59条の20 (第16条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(8)準用)	1 法定代理受領ができる旨を説明し、必要な援助を行っていない。	C
9 居宅サービス計画に沿ったサービスの提供	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、居宅サービス計画が作成されている場合は、当該居宅サービス計画に沿った指定地域密着型通所介護を提供しなければならない。	1 居宅サービス計画に沿ったサービスを提供しているか。	市条例第59条の20 (第17条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(9)準用)	1 居宅サービス計画に沿ったサービスを提供していない。	C

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
10 居宅サービス計画等の変更の援助	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、利用者が居宅サービス計画の変更を希望する場合は、当該利用者に係る指定居宅介護支援事業者への連絡その他の必要な援助を行わなければならない。	1 必要な援助を行っているか。	市条例第59条の20 (第18条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(10)準用)	1 必要な援助を行っていない。	C
11 サービスの提供の記録	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護を提供した際には、当該指定地域密着型通所介護の提供日及び内容、当該指定地域密着型通所介護について法第42条の2第6項の規定により利用者に代わって支払を受ける地域密着型介護サービス費の額その他必要な事項を、利用者の居宅サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載しなければならない。  (2) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護を提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録するとともに、利用者からの申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供しなければならない。	1 サービスの提供日及び内容等について記録しているか。  1 利用者に対してサービス内容等の記録を提供しているか。	市条例第59条の20 (第20条第1項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(12)①準用)  市条例第59条の20 (第20条第2項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(12)②準用)	1 サービスの提供日及び内容等について記録していない。  1 利用者に対してサービス内容等の記録を提供していない。	C  C
12 利用料等の受領	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、法定代理受領サービスに該当する指定地域密着型通所介護を提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該指定地域密着型通所介護に係る地域密着型介護サービス費用基準額から当該指定地域密着型通所介護事業者に支払われる地域密着型介護サービス費の額を控除して得た額の支払を受けるものとする。  (2) 指定地域密着型通所介護事業者は、法定代理受領サービスに該当しない指定地域密着型通所介護を提供した際にその利用者から支払を受ける利用料の額と、指定地域密着型通所介護に係る地域密着型介護サービス費用基準額との間に、不合理な差額が生じないようにしなければならない。  (3) 指定地域密着型通所介護事業者は、(1)及び(2)に定める場合において利用者から支払を受ける額のほか、次に掲げる費用の額の支払を利用者から受けることができる。 ア 利用者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域に居住する利用者に対して行う送迎に要する費用 イ 指定地域密着型通所介護に通常要する時間を超える指定地域密着型通所介護であって利用者の選定に係るものの提供に伴い必要となる費用の範囲内において、通常の指定地域密着型通所介護に係る地域密着型介護サービス費用基準額を超える費用 ウ 食事の提供に要する費用 エ おむつ代 オ アからエに掲げるもののほか、指定地域密着型通所介護の提供において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められる費用 ※ウ 食事の提供に要する費用については、「居住、滞在及び宿泊並びに食事の提供に係る利用料等に関する指針(平成17年9月7日 厚生労働省告示第419号)」によるものとする。	1 控除して得た額の支払いを受けているか。  1 不合理な差額が生じていないか。  1 適正な費用の支払を受けているか。	市条例第59条の7第1項 解釈通知第3の二の二の3(1)①  市条例第59条の7第2項 解釈通知第3の二の二の3(1)①  市条例第59条の7第3項, 第4項 解釈通知第3の二の二の3(1)②	1 控除して得た額の支払いを受けていない。  1 不合理な差額が生じている。  1 適正な費用の支払を受けていない。	C  C  C

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
13 保険給付の請求のための証明書の交付	<p>(4) 指定地域密着型通所介護事業者は、(3)の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。</p>	<p>1 あらかじめ同意を得ているか。</p>	<p>市条例第59条の7第5項 解釈通知第3の二の二の3(1)①</p>	<p>1 あらかじめ同意を得ているか。</p>	<p>C</p>
	<p>(5) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定居宅サービスその他のサービスの提供に要した費用につき、その支払を受ける際、当該支払をした居宅要介護被保険者に対し、領収証を交付しなければならない。</p>	<p>1 領収書を交付しているか。</p>	<p>法第42条の2第9項</p>	<p>1 領収書を交付していない。</p>	<p>C</p>
	<p>(6) 指定地域密着型通所介護事業者は、(5)より交付しなければならない領収証に、指定居宅サービスについて居宅要介護被保険者から支払を受けた費用の額のうち、食事の提供に要した費用の額及び滞在に要した費用の額に係るもの並びにその他の費用の額を区分して記載し、当該その他の費用の額についてはそれぞれ個別の費用ごとに区分して記載しなければならない。</p>	<p>1 領収書には個別の費用ごとに区分して記載しているか。</p>	<p>法第42条の2第2項 介護保険法施行規則第65条の5</p>	<p>1 個別の費用ごとに区分して記載していない。</p>	<p>C</p>
	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、法定代理受領サービスに該当しない指定地域密着型通所介護に係る利用料の支払を受けた場合は、提供した指定地域密着型通所介護の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付しなければならない。</p>	<p>1 サービス提供証明書を交付しているか。</p>	<p>市条例第59条の20 (第22条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(14)準用)</p>	<p>1 サービス提供証明書を交付していない。 2 サービス提供証明書の内容が不十分である。</p>	<p>C B</p>
	<p>(1) 指定地域密着型通所介護は、利用者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。</p>	<p>1 計画的に行われているか。</p>	<p>市条例第59条の8第1項 解釈通知第3の二の二の3(2)</p>	<p>1 計画的に行われていない。 2 計画が不十分である。</p>	<p>C B</p>
	<p>(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、自らその提供する指定地域密着型通所介護の質の評価を行い、常にその改善を図らなければならない。</p>	<p>1 評価し、改善を図っているか。</p>	<p>市条例第59条の8第2項 解釈通知第3の二の二の3(2)</p>	<p>1 評価し、改善を図っていない。 2 評価し、改善が不十分である。</p>	<p>C B</p>



項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
15 指定地域密着型通所介護の具体的な取組方針	<p>(1) 指定地域密着型通所介護の方針は、次に掲げるところによるものとする。</p> <p>ア 指定地域密着型通所介護は、利用者が住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図りつつ、利用者の心身の状況を踏まえ、妥当適切に行うものとする。</p> <p>イ 指定地域密着型通所介護は、利用者一人一人の人格を尊重し、利用者がそれぞれの役割を持って日常生活を送ることができるよう配慮して行うものとする。</p> <p>ウ 指定地域密着型通所介護の提供に当たっては、地域密着型通所介護計画に基づき、漫然かつ画一的にならないように、利用者の機能訓練及びその者が日常生活を営むことができるよう必要な援助を行うものとする。</p> <p>エ 地域密着型通所介護従業者は、指定地域密着型通所介護の提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行うものとする。</p> <p>オ 指定地域密着型通所介護の提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行うものとする。</p> <p>カ 指定地域密着型通所介護事業者は、常に利用者の心身の状況を的確に把握しつつ、相談援助等の生活指導、機能訓練その他必要なサービスを利用者の希望に添って適切に提供する。特に、認知症である要介護者に対しては、必要に応じ、その特性に対応したサービスの提供ができる体制を整えるものとする。</p>	1 具体的方針の取扱いは適切か。	市条例第59条の9 解釈通知第3の二の二の3(2)	<p>1 具体的方針の取扱いが不適切である。</p> <p>2 具体的方針の取扱いが不十分である。</p>	C B
16 地域密着型通所介護計画の作成	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業所の管理者は、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、機能訓練等の目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した地域密着型通所介護計画を作成しなければならない。 ※サービスの提供に関わる従業者が共同して個々の利用者ごとに作成すること。</p> <p>(2) 地域密着型通所介護計画は、既に居宅サービス計画が作成されている場合は、当該居宅サービス計画の内容に沿って作成しなければならない。 ※地域密着型通所介護計画作成後に居宅サービス計画が作成された場合は、当該地域密着型通所介護計画が居宅サービス計画に沿ったものであるか確認し、必要に応じて変更すること。</p> <p>(3) 指定地域密着型通所介護事業所の管理者は、地域密着型通所介護計画の作成に当たっては、その内容について利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得なければならない。</p> <p>(4) 指定地域密着型通所介護事業所の管理者は、地域密着型通所介護計画を作成した際には、当該地域密着型通所介護計画を利用者に交付しなければならない。</p> <p>(5) 地域密着型通所介護従業者は、それぞれの利用者について、地域密着型通所介護計画に従ったサービスの実施状況及び目標の達成状況の記録を行う。</p>	<p>1 地域密着型通所介護計画を作成しているか。</p> <p>1 居宅サービス計画に沿って作成しているか。</p> <p>1 地域密着型通所介護計画の内容を説明し、同意を得ているか。</p> <p>1 利用者に地域密着型通所介護計画を交付しているか。</p> <p>1 サービス実施状況及び目標の達成状況の記録を行っているか。</p>	<p>市条例第59条の10第1項 解釈通知第3の二の二の3(3)</p> <p>市条例第59条の10第2項 解釈通知第3の二の二の3(3)</p> <p>市条例第59条の10第3項 解釈通知第3の二の二の3(3)</p> <p>市条例第59条の10第4項 解釈通知第3の二の二の3(3)</p> <p>市条例第59条の10第5項 解釈通知第3の二の二の3(3)</p>	<p>1 地域密着型通所介護計画を作成していない。</p> <p>2 内容が不十分である。</p> <p>1 居宅サービス計画に沿って作成していない。</p> <p>2 必要に応じて変更されていない。</p> <p>1 地域密着型通所介護計画の内容を説明し、同意を得ていない。</p> <p>2 内容の説明、同意が不十分である。</p> <p>1 利用者に地域密着型通所介護計画を交付していない。</p> <p>1 サービス実施状況及び目標の達成状況の記録を行っていない。</p> <p>2 実施状況及び目標の達成状況の記録が不十分である。</p>	C B C B C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
17 利用者に関する市への通知	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護を受けている利用者が次のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市に通知しなければならない。 ア 正当な理由なしに指定地域密着型通所介護の利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を増進させたと認められるとき。 イ 偽りその他不正な行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。	1 意見を付して市に通知しているか。	市条例第59条の20 (第28条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(18)準用)	1 市に通知していない。 2 市への通知が不十分である。	C B
18 緊急時等の対応	(1) 訪問介護員等は、現に指定地域密着型通所介護の提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。	1 必要な措置を講じているか。	市条例第59条の20 (第53条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の二の4(3)準用)	1 必要な措置を講じていない。 2 必要な手続が不十分である	C B
19 管理者の責務	(1) 指定地域密着型通所介護事業所の管理者は、当該指定地域密着型通所介護事業所の従業員の管理及び指定地域密着型通所介護の利用の申込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行うものとする。  (2) 指定地域密着型通所介護事業所の管理者は、当該指定地域密着型通所介護事業所の従業員に「第4_運営に関する基準」の規定を遵守させるため必要な指揮命令を行うものとする。	1 管理者は業務管理等を適切に行っているか。  1 規定を遵守するための指揮命令を行っているか。	市条例第59条の11第1項 解釈通知第3の二の二の3(4)  市条例第59条の11第2項 解釈通知第3の二の二の3(4)	1 業務管理等が不適切である。 2 業務管理等が不十分である。  1 規定を遵守するための指揮命令を行っていない。	C B  C
20 運営規程	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護事業所ごとに、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程を定めておかなければならない。 ア 事業の目的及び運営の方針 イ 従業員の職種、員数及び職務の内容 ウ 営業日及び営業時間 エ 指定地域密着型通所介護の利用定員 オ 指定地域密着型通所介護の内容及び利用料その他の費用の額 カ 通常の事業の実施地域 キ サービス利用に当たっての留意事項 ク 緊急時等における対応方法 ケ 非常災害対策 コ 虐待の防止のための措置に関する事項 サ その他運営に関する重要事項	1 運営規程を定めているか。  2 定めた内容と現実に差異がないか。	市条例第59条の12 解釈通知第3の二の二の3(5)	1 運営規程を作成していない。 2 内容が不十分である。 3 規定内容と現実に差異がある。	C B B
21 勤務体制の確保等	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、利用者に対し適切な指定地域密着型通所介護を提供できるよう、指定地域密着型通所介護事業所ごとに従業員の勤務の体制を定めておかなければならない。 ※指定地域密着型通所介護事業所ごとに、原則として月ごとの勤務表を作成し、地域密着型通所介護従業者の日々の勤務時間、常勤、非常勤の別、専従の生活相談員、看護職員、介護職員及び機能訓練指導員の配置、管理者との兼務関係等を明確にすること。	1 勤務の体制を適切に定めているか。	市条例第59条の13第1項 解釈通知第3の二の二の3(6)①	1 勤務の体制が不適切である。 2 勤務の体制が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
22 業務継続計画の策定等	<p>(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護事業所ごとに、当該指定地域密着型通所介護事業所の従業者によって指定地域密着型通所介護を提供しなければならない。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。</p>	<p>1 従業者が地域密着型通所介護を提供しているか。</p>	<p>市条例第59条の13第2項 解釈通知第3の二の二の3(6)②</p>	<p>1 従業者が地域密着型通所介護を提供していない。</p>	<p>C</p>
	<p>(3) 指定地域密着型通所介護事業者は、地域密着型通所介護従業者の資質の向上のために、その研修の機会を確保しなければならない。その際、当該指定地域密着型通所介護事業者は、全ての地域密着型通所介護従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じなければならない。</p>	<p>1 研修の機会を確保しているか。 2 全ての従事者に認知症介護に係る研修を受講させているか。</p>	<p>市条例第59条の13第3項 解釈通知第3の二の二の3(6)③</p>	<p>1 研修の機会を確保していない。 2 研修の機会の確保が不十分である。 3 認知症介護に係る研修を受講させていない。</p>	<p>C B C</p>
	<p>(4) 指定地域密着型通所介護事業者は、適切な指定地域密着型通所介護の提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより地域密着型通所介護従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じなければならない。</p>	<p>1 必要な措置を講じているか。</p>	<p>市条例第59条の13第4項 解釈通知第3の二の二の3(6)④</p>	<p>1 必要な措置を講じていない。 2 必要な措置が不十分である。</p>	<p>C B</p>
	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する指定地域密着型通所介護の提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じなければならない。 ※業務継続計画には、地域の実態を考慮し、次に掲げる項目等を記載すること。 ア 感染症に係る業務継続計画 （ア）平時からの備え（体制構築・整備、感染症防止に向けた取組の実施、備蓄品の確保等） （イ）初動対応 （ウ）感染拡大防止体制の確立（保健所との連携、濃厚接触者への対応、関係者との情報共有等） イ 災害に係る業務継続計画 （ア）平常時の対応（建物・設備の安全対策、電気・水道等のライフラインが停止した場合の対策、必要品の備蓄等） （イ）緊急時の対応（業務継続計画発動基準、対応体制等） （ウ）他施設及び地域との連携</p>	<p>1 必要な措置を講じているか。</p>	<p>第59条の20 （第32条の2第1項準用） 解釈通知第3の二の二の3(7)①,②</p>	<p>1 必要な措置を講じていない。 2 必要な措置が不十分である。</p>	<p>C B</p>
	<p>(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、地域密着型通所介護従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的（年1回以上）に実施しなければならない。 ※研修の内容は、感染症及び災害に係る業務継続計画の具体的内容を職員間に共有するとともに、平常時の対応の必要性や、緊急時の対応にかかる理解の励行を行うものとする。また、研修の実施内容についても記録すること。  (3) 指定地域密着型通所介護事業者は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。</p>	<p>1 業務継続計画に従事者に周知し、必要な研修及び訓練を行っているか。  1 必要に応じて計画の変更を行っているか。</p>	<p>第59条の20 （第32条の2第2項準用） 解釈通知第3の二の二の3(7)③,④  第59条の20 （第32条の2第3項準用）</p>	<p>1 業務継続計画に従事者に周知し、必要な研修及び訓練を行っていない。  1 必要に応じて計画の変更を行っていない。</p>	<p>C  C</p>

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
23 定員の遵守	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、利用定員を超えて指定地域密着型通所介護の提供を行ってはならない。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りでない。	1 利用定員を超えていないか。	市条例第59条の14	1 利用定員を超えている。	C
24 非常災害対策	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連携体制を整備し、それらを定期的に従業員に周知するとともに、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行わなければならない。 ※非常災害に関する具体的計画とは、消防計画及び風水害、地震等の災害に対処するための計画をいう。また、防火管理者を置くこととされている指定地域密着型通所介護事業所は、消防計画の策定及びこれに基づく消防業務の実施を防火管理者に行わせるものとする。	1 非常災害対策は適切か。	市条例第59条の15第1項 解釈通知第3の二の二の3(8)①  消防法第8条 消防法施行規則第3条	1 非常災害対策が不適切である。 2 消防計画等を定めていない。 3 防火管理者等を選任していない。	C C B
25 衛生管理等	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、(1)に規定する訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならない。	1 地域住民との連携に努めているか。	市条例第59条の15第2項 解釈通知第3の二の二の3(8)②	1 連携に努めていない。	B
25 衛生管理等	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じなければならない。	1 衛生上必要な措置等を講じているか。	市条例第59条の16第1項 解釈通知第3の二の二の3(9)①	1 衛生上必要な措置等を講じていない。 2 衛生上必要な措置等が不十分である。	C B
25 衛生管理等	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、当該指定地域密着型通所介護事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように、次に掲げる措置を講じなければならない。 ア 当該指定地域密着型通所介護事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)をおおむね6月に1回以上開催するとともに、その結果について、地域密着型通所介護従業員に周知徹底を図ること。 イ 当該指定地域密着型通所介護事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備すること。 ウ 当該指定地域密着型通所介護事業所において、地域密着型通所介護従業員に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的実施すること。	1 感染症が発生又はまん延しないよう、必要な措置を講じているか。	市条例第59条の16第2項 解釈通知第3の二の二の3(9)②	1 感染症が発生又はまん延しないよう、必要な措置を講じていない。 2 感染症が発生又はまん延しないよう、必要な措置が不十分である。	C B
26 掲示	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護事業所の見やすい場所に、運営規程の概要、地域密着型通所介護従業員の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示しなければならない。	1 運営規程の概要等を掲示しているか。	市条例第59条の20 (第34条第1項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(25)①準用)	1 運営規程の概要等を掲示していない。	C
26 掲示	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、(1)に規定する事項を記載した書面を当該指定地域密着型通所介護事業所に備え付け、かつ、これをいつでも関係者に自由に閲覧させることにより、(1)の規定による掲示に代えることができる。	1 掲示に代え、運営規程の概要等を記載した書面を自由に閲覧できるようにしているか。	市条例第59条の20 (第34条第2項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(25)②準用)	1 運営規程の概要等を記載した書面を自由に閲覧できるようにしていない。	C

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
27 秘密保持等	(1) 指定地域密着型通所介護事業所の従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。	1 業務上知り得た利用者等の秘密を漏らしていないか。	市条例第59条の20 (第35条第1項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(26)①準用)	1 業務上知り得た利用者等の秘密を漏らしている。	C
	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、当該指定地域密着型通所介護事業所の従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないように、必要な措置を講じなければならない。	1 秘密を漏らさないために必要な措置を講じているか。	市条例第59条の20 (第35条第2項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(26)②準用)	1 秘密を漏らさないために必要な措置を講じていない。	C
	(3) 指定地域密着型通所介護事業者は、サービス担当者会議等において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておかなければならない。	1 あらかじめ文書による同意を得ているか。	市条例第59条の20 (第35条第3項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(26)③準用)	1 あらかじめ文書による同意を得ていない。	C
28 広告	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護事業所について広告をする場合においては、その内容が虚偽又は誇大なものとしてはならない。	1 適切な広告を行っているか。	市条例第59条の20 (第36条準用)	1 適切な広告を行っていない。	C
29 指定居宅介護支援事業者に対する利益供与の禁止	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定居宅介護支援事業者又はその従業者に対し、利用者に特定の事業者によるサービスを利用させることの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはならない。	1 利益を供与していないか。	市条例第59条の20 (第37条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(27)準用)	1 利益を供与している。	C
30 苦情処理	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、提供した指定地域密着型通所介護に係る利用者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じなければならない。	1 苦情受付窓口を設置する等の必要な措置を講じているか。	市条例第59条の20 (第38条第1項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(28)①準用)	1 苦情受付窓口を設置する等の必要な措置を講じていない。	C
	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、(1)の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録しなければならない。	1 苦情の内容等を記録しているか。	市条例第59条の20 (第38条第2項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(28)②準用)	1 苦情の内容等を記録していない。	C
	(3) 指定地域密着型通所介護事業者は、提供した指定地域密着型通所介護に関し、法第23条の規定により市が行う文書その他の物件の提出若しくは提示の求め又は市の職員からの質問若しくは照会に応じ、及び利用者からの苦情に関して市が行う調査に協力するとともに、市から指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。	1 指導又は助言に従って必要な改善を行っているか。	市条例第59条の20 (第38条第3項準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(28)③準用)	1 指導又は助言に従って必要な改善を行っていない。	C

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
31 地域との連携等	(4) 指定地域密着型通所介護事業者は、市からの求めがあった場合には、(3)の改善の内容を市に報告しなければならない。	1 改善内容を市に報告しているか。	市条例第59条の20 (第38条第4項準用)	1 改善内容を市に報告していない。	C
	(5) 指定地域密着型通所介護事業者は、提供した指定地域密着型通所介護に係る利用者からの苦情に関して国民健康保険団体連合会が行う法第176条第1項第3号の調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会から同号の指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。	1 指導又は助言に従って必要な改善を行っているか。	市条例第59条の20 (第38条第5項準用)	1 指導又は助言に従って必要な改善を行っていない。	C
	(6) 指定地域密着型通所介護事業者は、国民健康保険団体連合会からの求めがあった場合には、(5)の改善の内容を国民健康保険団体連合会に報告しなければならない。	1 改善内容を国民健康保険団体連合会に報告しているか。	市条例第59条の20 (第38条第6項準用)	1 改善内容を国民健康保険団体連合会に報告していない。	C
	(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護の提供に当たっては、利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、市の職員又は当該指定地域密着型通所介護事業所が所在する区域を管轄する地域包括支援センターの職員、地域密着型通所介護について知見を有する者等により構成される協議会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。ただし、利用者等が参加する場合にあっては、テレビ電話装置等の活用について当該利用者等の同意を得なければならない。)(以下「運営推進会議」という。)を設置し、おおむね6月に1回以上、運営推進会議に対し活動状況を報告し、運営推進会議による評価を受けるとともに、運営推進会議から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。	1 おおむね6月に1回以上運営推進会議に活動状況を報告し、評価を受け、助言等を聴く機会を設けているか。	市条例第59条の17第1項 解釈通知第3の二の二の3(10)①	1 運営推進会議に活動状況を報告し、評価を受け、助言等を聴く機会を設けていない。 2 テレビ電話装置等で活用する条件を満たしていない。 3 複数の事業所で開催する条件を満たしていない。	C B B
	(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、(1)の報告、評価、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表しなければならない。	1 記録を作成し、公表しているか。	市条例第59条の17第2項 解釈通知第3の二の二の3(10)②	1 記録を作成し、公表していない。	C
	(3) 指定地域密着型通所介護事業者は、その事業の運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図らなければならない。	1 連携及び協力を行う等で地域との交流を図っているか。	市条例第59条の17第3項 解釈通知第3の二の二の3(10)③	1 連携及び協力を行う等で地域との交流を図っていない。	C
	(4) 指定地域密着型通所介護事業者は、その事業の運営に当たっては、提供した指定地域密着型通所介護に関する利用者からの苦情に関して、市等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市が実施する事業に協力するよう努めなければならない。	1 市等が派遣する者が相談及び援助を行う事業等に協力するよう努めているか。	市条例第59条の17第4項 解釈通知第3の二の二の3(10)④	1 市等が派遣する者が相談及び援助を行う事業等に協力するよう努めていない。	B
	(5) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護事業所の所在する建物と同一の建物に居住する利用者に対して指定地域密着型通所介護を提供する場合には、当該建物に居住する利用者以外の者に対しても指定地域密着型通所介護の提供を行うよう努めなければならない。	1 事業所と同一の建物に居住しない利用者に対してサービス提供を行うよう努めているか。	市条例第59条の17第5項 解釈通知第3の二の二の3(10)⑤	1 事業所と同一の建物に居住しない利用者に対してサービス提供を行うよう努めていない。	B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
32 事故発生時の対応	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、利用者に対する指定地域密着型通所介護の提供により事故が発生した場合は、市、当該利用者の家族、当該利用者に係る指定居宅介護支援事業者等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。</p> <p>(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、(1)の事故の状況及び事故に際して採った処置について記録しなければならない。</p> <p>(3) 指定地域密着型通所介護事業者は、利用者に対する指定地域密着型通所介護の提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行わなければならない。</p> <p>(4) 指定地域密着型通所介護事業者は、第3-1- (4)の指定地域密着型通所介護以外のサービスの提供により事故が発生した場合は、(1)及び(2)の規定に準じた必要な措置を講じなければならない。</p>	<p>1 事故発生時に市、利用者の家族、居宅介護支援事業所等に連絡し、必要な措置を講じているか。</p> <p>1 事故の状況及び事故に際して採った処置について記録しているか。</p> <p>1 損害賠償を速やかに行っているか。</p> <p>1 通所介護以外のサービスの提供により事故が発生した場合に規定に準じた必要な措置を講じているか。</p>	<p>市条例第59条の18第1項 解釈通知第3の二の二の3(11)</p> <p>市条例第59条の18第2項 解釈通知第3の二の二の3(11)</p> <p>市条例第59条の18第3項 解釈通知第3の二の二の3(11)</p> <p>市条例第59条の18第4項 解釈通知第3の二の二の3(11)</p>	<p>1 事故発生時に市、利用者の家族、居宅介護支援事業所等に連絡し、必要な措置を講じていない。</p> <p>2 必要な措置が不十分である。</p> <p>1 事故の状況及び事故に際して採った処置について記録していない。</p> <p>2 記録が不十分である。</p> <p>1 損害賠償を速やかに行っていない。</p> <p>2 損害賠償が不十分である。</p> <p>1 通所介護以外のサービスの提供により事故が発生した場合に規定に準じた必要な措置を講じている。</p> <p>2 規定に準じた措置が不十分である。</p>	<p>C</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>C</p>
33 虐待の防止	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、虐待の発生又はその再発を防止するため、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>ア 当該指定地域密着型通所介護事業所における虐待の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的に開催するとともに、その結果について、地域密着型通所介護従業者に周知徹底を図ること。</p> <p>イ 当該指定地域密着型通所介護事業所における虐待の防止のための指針を整備すること。</p> <p>ウ 当該指定地域密着型通所介護事業所において、地域密着型通所介護従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的(年1回以上)に実施し、記録すること。</p> <p>エ アからウに掲げる措置を適切に実施するための担当者を置くこと。</p>	<p>1 虐待の発生又は再発防止のための措置を講じているか。</p>	<p>市条例第59条の20 (第40条の2準用)</p> <p>解釈通知第3の二の二(12)</p>	<p>1 虐待の発生又は再発防止のための措置を講じていない。</p> <p>2 虐待の発生又は再発防止のための措置が不十分である。</p>	<p>C</p> <p>B</p>
34 会計の区分	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、指定地域密着型通所介護事業所ごとに経理を区分するとともに、指定地域密着型通所介護の事業の会計とその他の事業の会計を区分しなければならない。</p>	<p>1 指定地域密着型通所介護の事業の会計とその他の事業の会計を区分しているか。</p>	<p>市条例第59条の20 (第41条準用) 解釈通知第3の二の二の3(14) (第3の一の4(32)準用)</p>	<p>1 指定地域密着型通所介護の事業の会計とその他の事業の会計を区分していない。</p>	<p>C</p>

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
35 記録の整備	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。</p> <p>(2) 指定地域密着型通所介護事業者は、利用者に対する指定地域密着型通所介護の提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完結の日から2年間保存しなければならない。</p> <p>ア 地域密着型通所介護計画  イ 「11_サービスの提供の記録」に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録  ウ 「17_利用者に関する市への通知」に規定する市への通知に係る記録  エ 「30_苦情処理」に規定する苦情の内容等の記録  オ 「32_事故発生時の対応」に規定する事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録  カ 「31_地域との連携等」に規定する報告、評価、要望、助言等の記録</p>	<p>1 従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しているか。</p> <p>1 利用者に対する指定地域密着型通所介護の提供に関する記録を整備し、2年間保存しているか。</p>	<p>市条例第59条の19第1項</p> <p>市条例第59条の19第2項  解釈通知第3の二の二の3(13)</p>	<p>1 従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備記録を整備していない。</p> <p>2 記録の整備が不十分である。</p> <p>1 利用者に対する指定地域密着型通所介護の提供に関する記録を整備又は保存していない。</p> <p>2 記録の整備又は保存が不十分である。</p>	<p>C</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p>
第5 変更の届出等	<p>(1) 事業者は、当該指定に係る事業所の名称及び所在地その他の事項に変更があったとき、又は休止した当該事業を再開したときは、10日以内に、次に掲げる事項を市長に届け出なければならない。</p> <p>ア 事業所の名称及び所在地  イ 申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名  ウ 申請者の登記事項証明書又は条例等  エ 事業所の平面図（各室の用途を明示するものとする。）及び設備の概要  オ 事業所の管理者の氏名、生年月日及び住所  カ 運営規程</p> <p>(2) 事業者は、当該事業を廃止し、又は休止しようとするときは、その廃止又は休止の日の1月前までに、次に掲げる事項を市長に届け出なければならない。</p> <p>ア 廃止し、又は休止しようとする年月日  イ 廃止し、又は休止しようとする理由  ウ 現に指定地域密着型サービスを受けている者に対する措置  エ 休止しようとする場合にあっては、休止の予定期間</p>	<p>1 変更又は再開に関する事項を届け出ているか。</p> <p>1 廃止又は休止に関する事項を届け出ているか。</p>	<p>法第78条の5第1項  施行規則第131条の13第1項、第3項</p> <p>施行規則第131条の13第4項</p>	<p>1 変更又は再開に関する事項を届け出していない。</p> <p>1 廃止又は休止に関する事項を届け出していない。</p>	<p>C</p> <p>C</p>



項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
第6 介護給付費の算定及び取扱い					
1 基本的事項	<p>(1) 指定地域密着型通所介護に要する費用の額は、報酬告示の別表「指定地域密着型サービス介護給付費単位数表」により算定される。ただし、指定地域密着型通所介護事業者が指定地域密着型通所介護事業所毎に所定単位数より低い単位数を設定する旨を、市長に事前に届出を行った場合は、この限りではない。</p> <p>(2) 指定地域密着型通所介護事業に要する費用の額は、平成27年厚生省告示第93号の「厚生労働大臣が定める1単位の単価」に定める1単位の単価に、(1)の別表に定める単位数を乗じて算定する。</p> <p>(3) 1単位の単価に単位数を乗じて得た額に1円未満の端数があるときは、その端数金額は切り捨てて計算する。</p>	<p>1 適正に算定しているか。</p> <p>1 適正に算定しているか。</p> <p>1 端数金額を切り捨てているか。</p>	<p>報酬告示の一</p> <p>報酬告示の二</p> <p>報酬告示の三</p>	<p>1 算定が不適正である。</p> <p>2 算定が不十分である。</p> <p>1 算定が不適正である。</p> <p>2 算定が不十分である。</p> <p>1 端数金額を切り捨てていない。</p>	<p>C</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>C</p>
2 所要時間による区分の取扱い	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所において、指定地域密着型通所介護を行った場合に、利用者の要介護状態区分に応じて、現に要した時間ではなく、地域密着型通所介護計画に位置付けられた内容の指定地域密着型通所介護を行うのに要する標準的な時間で、それぞれ所定単位数を算定する。ただし、利用者の数又は看護職員若しくは介護職員の員数が平成12年厚生省告示第27号の五の二（厚生労働大臣が定める利用者の数の基準及び看護職員等の員数の基準並びに地域密着型通所介護費等の算定方法）に該当する場合（定員超過利用・人員基準欠如に該当する場合は、同告示により算定する。 ※別に厚生労働大臣が定める施設基準は次のとおり。 ア 指定地域密着型通所介護事業所であること。 イ 「第2の1_従業者の員数」に定める看護職員又は介護職員（共生型地域密着型通所介護の事業を行う指定地域密着型通所介護事業所にあつては、市条例37条の2第1号に定める従業者）の員数を置いていること。</p> <p>(2) 療養通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして市長に届け出た指定療養通所介護事業所において、利用者（別に厚生労働大臣が定める者に限る。）について、指定療養通所介護を行った場合に、現に要した時間ではなく、療養通所介護計画に位置づけられた内容の指定療養通所介護を行うのに要する標準的な時間で、それぞれ所定単位数を算定する。ただし、利用者の数又は看護職員若しくは介護職員の員数が平成12年厚生省告示第27号の五の二（厚生労働大臣が定める利用者の数の基準及び看護職員等の員数の基準並びに地域密着型通所介護費等の算定方法）に該当する場合〔定員超過利用・人員基準欠如に該当する場合は、同告示により算定する。 ※1 別に厚生労働大臣が定める施設基準は次のとおり。 ア 指定療養通所介護事業所であること。 イ 市条例第59条の23に定める看護職員又は介護職員の員数を置いていること。 ※2 別に厚生労働大臣が定める者とは次のとおりである。 難病等を有する中重度者又は末期の悪性腫瘍のものであって、サービスの提供に当たり、常時看護師による観察を必要とするもの。</p>	<p>1 適正に算定しているか。</p> <p>1 適正に算定しているか。</p> <p>1 適正に算定しているか。</p>	<p>報酬告示別表2の2注1 留意事項第2の3の2(1), (5), (22)及び(23) 平12年厚労告27七 平27年厚労告96二十七の二 イ</p> <p>報酬告示別表2の2注2 留意事項第2の3の2(5), (22)及び(23) 平12年厚労告27七 平27年厚労告96二十七の二 ロ 平27年厚労告94三十五の二の三</p>	<p>1 算定が不適正である。</p> <p>2 算定が不十分である。</p> <p>1 算定が不適正である。</p> <p>2 算定が不十分である。</p>	<p>C</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p>

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
3 入浴介助を行わない場合の減算	(1) 療養通所介護費について、入浴介助を行っていない場合は、所定単位数の100分の95に相当する単位数を算定する。また、指定療養通所介護事業所が提供する指定療養通所介護の算定月における提供回数について、利用者1人当たり平均回数が、月5回に満たない場合は、所定単位数の100分の70に相当する単位数を算定する。	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注3 留意事項第2の3の2(24) ⑤, ⑥	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
4 2時間以上3時間未満の地域密着型通所介護を行う場合の取扱い	(1) 別に厚生労働大臣が定める基準に適合する利用者に対して、所要時間2時間以上3時間未満の指定地域密着型通所介護を行う場合は、「所要時間4時間以上5時間未満の場合」の所定単位数の100分の70に相当する単位数を算定する。 ※別に厚生労働大臣が定める基準に適合する利用者とは次のとおり。 心身の状況その他利用者のやむを得ない事情により、長時間のサービス利用が困難である利用者	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注4 留意事項第2の3の2(2) 平27年厚労告94三十五の三	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
5 感染症又は災害の発生を理由とする利用者が減少した場合のサービス利用に係る加算	(1) 地域密着型通所介護費について、感染症又は災害（厚生労働大臣が認めるものに限る。）の発生を理由とする利用者数の減少が生じ、当該月の利用者数の実績が当該月の前年度における月平均の利用者数よりも100分の5以上減少している場合に、市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所において、指定地域密着型通所介護を行った場合には、利用者数が減少した月の翌々月から3月以内に限り、1回につき所定単位数の100分の3に相当する単位数を所定単位数に加算する。ただし、利用者数の減少に対応するための経営改善に時間を要することその他の特別の事情があると認められる場合は、当該加算の期間が終了した月の翌月から3月以内に限り、引き続き加算することができる。	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注5 留意事項第2の3の2(3)	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
6 8時間以上9時間未満の地域密着型通所介護の前後に連続して延長サービスを行った場合に係る加算	(1) 地域密着型通所介護費について、日常生活上の世話をを行った後に引き続き所要時間8時間以上9時間未満の指定地域密着型通所介護を行った場合又は所要時間8時間以上9時間未満の指定地域密着型通所介護を行った後に引き続き日常生活上の世話をを行った場合であって、当該指定地域密着型通所介護の所要時間と当該指定地域密着型通所介護の前後に行った日常生活上の世話の所要時間を通算した時間が9時間以上となった場合は、次に掲げる区分に応じ、所定単位数に加算する。 ア 9時間以上10時間未満の場合 イ 10時間以上11時間未満の場合 ウ 11時間以上12時間未満の場合 エ 12時間以上13時間未満の場合 オ 13時間以上14時間未満の場合	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注6 留意事項第2の3の2(4)	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
7 共生型地域密着型通所介護を提供した場合の費用の算定	(1) 地域密着型通所介護費について、共生型地域密着型サービスの事業を行う指定生活介護事業者が当該事業を行う事業所において共生型地域密着型通所介護を行った場合は、所定単位数の100分の93に相当する単位数を算定し、共生型地域密着型サービスの事業を行う指定自立訓練(機能訓練)事業者又は指定自立訓練(生活訓練)事業者が当該事業を行う事業所において共生型地域密着型通所介護を行った場合は、所定単位数の100分の95に相当する単位数を算定し、共生型居宅サービスの事業を行う指定児童発達支援事業所が当該事業を行う事業所において共生型地域密着型通所介護を行った場合は、所定単位数の100分の90に相当する単位数を算定し、共生型地域密着型サービスの事業を行う指定放課後等デイサービス事業者が当該事業を行う事業所において共生型地域密着型通所介護を行った場合は、所定単位数の100分の90に相当する単位数を算定する。	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注7 留意事項第2の3の2(5)	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
8 生活相談員配置等加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所において、「7_共生型地域密着型通所介護を提供した場合の費用の算定」をしている場合は、生活相談員配置等加算として、1日につき所定単位数に加算する。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。</p> <p>ア 生活相談員を1名以上配置していること。</p> <p>イ 地域に貢献する活動を行っていること。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注8 留意事項第2の3の2(6) 平27年厚労告95十四の二	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
9 中山間地域等に居住する者にサービスを提供した事業所への評価	<p>(1) 指定地域密着型通所介護事業所又は指定療養通所介護事業所の従業者が、別に厚生労働大臣が定める地域（中山間地域等）に居住している利用者に対して、通常の事業の実施地域を越えて、指定地域密着型通所介護又は指定療養通所介護を行った場合は、1日につき所定単位数の100分の5に相当する単位数を所定単位数に加算する。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める地域は、平成21年厚生労働省告示第83号「厚生労働大臣が定める地域」二</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注9 留意事項第2の3の2(7)	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
10 入浴介助加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費については、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出て当該基準による入浴介助を行った場合は、1日につき次に掲げる区分に応じて、所定単位数に加算する。ただし、次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定しない。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。</p> <p>ア 入浴介助加算（Ⅰ） 入浴介助を適切に行うことができる人員及び設備を有して行われる入浴介助</p> <p>イ 入浴介助加算（Ⅱ） （ア）アに掲げる基準に適合すること。 （イ）医師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、介護支援専門員その他の職種の者（以下「医師等」という。）が利用者の居宅を訪問し、浴室における当該利用者の動作及び浴室の環境を評価していること。当該訪問において、当該居宅の浴室が、当該利用者自身又はその家族等の介助により入浴を行うことが難しい環境にあると認められる場合は、訪問した医師等が、指定居宅介護支援事業所の介護支援専門員又は指定福祉用具貸与事業所若しくは指定特定福祉用具販売事業所の福祉用具専門相談員と連携し、福祉用具の貸与若しくは購入又は住宅改修等の浴室の環境整備に係る助言を行うこと。 （ウ）当該指定地域密着型通所介護事業所の機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員その他の職種の者（以下「機能訓練指導員等」という。）が共同して、利用者の居宅を訪問した医師等との連携の下で、当該利用者の身体の状況、訪問により把握した当該居宅の浴室の環境等を踏まえて個別の入浴計画を作成すること。 （エ）（ウ）の入浴計画に基づき、個浴その他の利用者の居宅の状況に近い環境で、入浴介助を行うこと。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注10 留意事項第2の3の2(8) 平27年厚労告95十四の三	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
11 中重度者ケア体制加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所が、中重度の要介護者を受け入れる体制を構築し、指定地域密着型通所介護を行った場合は、中重度者ケア体制加算として、1日につき所定単位数に加算する。ただし、「7_共生型地域密着型通所介護を提供した場合の費用の算定」をしている場合は、算定しない。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準とは次のとおり。</p> <p>ア 「第2の1_従業者の員数」イ又はウに規定する看護職員又は介護職員の員数に加え、看護職員又は介護職員を常勤換算方法で2以上確保していること。</p> <p>イ 指定地域密着型通所介護事業所における前年度又は算定日が属する月の前3月間の利用者の総数のうち、要介護状態区分が要介護3、要介護4及び要介護5である者の占める割合が100分の30以上であること。</p> <p>ウ 指定地域密着型通所介護を行う時間帯を通じて、専ら当該指定地域密着型通所介護の提供に当たる看護職員を1名以上配置していること。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注11 留意事項第2の3の2(9) 平27年厚労告95五十一の三	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
12 生活機能向上連携加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所において、外部との連携により、利用者の身体の状態等の評価を行い、かつ、個別機能訓練計画を作成した場合には、当該基準に掲げる区分に従い、アについては、利用者の急性増悪等により当該個別機能訓練計画を見直した場合を除き3月に1回を限度として、1月につき、イについては1月につき、次に掲げる区分に応じて所定単位数に加算する。ただし、次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定しない。また、「13_個別機能訓練加算」を算定している場合、アは算定せず、イは1月につき所定単位数に加算する。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。</p> <p>ア 生活機能向上連携加算（Ⅰ） 次のいずれにも適合すること。</p> <p>(ア) 指定訪問リハビリテーション事業所、指定通所リハビリテーション事業所又はリハビリテーションを実施している医療提供施設（病院にあっては、許可病床数が200床未満のもの又は当該病院を中心とした半径4キロメートル以内に診療所が存在しないものに限る。以下同じ。）の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は医師（以下「理学療法士等」という。）の助言に基づき、当該指定地域密着型通所介護事業所の機能訓練指導員等（機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員、その他の職種の者）が共同して利用者の身体状況等の評価及び個別機能訓練計画の作成を行っていること。</p> <p>(イ) 個別機能訓練計画に基づき、利用者の身体機能又は生活機能の向上を目的とする機能訓練の項目を準備し、機能訓練指導員等が利用者の心身の状況に応じた機能訓練を適切に提供していること。</p> <p>(ウ) (ア) の評価に基づき、個別機能訓練計画の進捗状況等を3月ごとに1回以上評価し、利用者又はその家族に対し、機能訓練の内容と個別機能訓練計画の進捗状況等を説明し、必要に応じて訓練内容の見直し等を行っていること。</p> <p>イ 生活機能向上連携加算（Ⅱ） 次のいずれにも適合すること。</p> <p>(ア) 指定訪問リハビリテーション事業所、指定通所リハビリテーション事業所又はリハビリテーションを実施している医療提供施設の理学療法士等が、当該指定地域密着型通所介護事業所を訪問し、当該事業所の機能訓練指導員等が共同して利用者の身体状況等の評価及び個別機能訓練計画の作成を行っていること。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注12 留意事項第2の3の2(10) 平27年厚労告95十五の二	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
13 個別機能訓練加算	<p>(イ) 個別機能訓練計画に基づき、利用者の身体機能又は生活機能の向上を目的とする機能訓練の項目を準備し、機能訓練指導員等が利用者の心身の状況に応じた機能訓練を適切に提供していること。</p> <p>(ウ) (ア) の評価に基づき、個別機能訓練計画の進捗状況等を3月ごとに1回以上評価し、利用者又はその家族に対し、機能訓練の内容と個別機能訓練計画の進捗状況等を説明し、必要に応じて訓練内容の見直し等を行っていること。</p> <p>(1) 地域密着型通所介護費については、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護の利用者に対して、機能訓練を行っている場合には、当該基準に掲げる区分に従い、1日につき所定単位数に加算する。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。</p> <p>ア 個別機能訓練加算(Ⅰ)イ 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>(ア) 専ら機能訓練指導員の職務に従事する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師又はきゅう師(はり師及びきゅう師については、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する機能訓練指導員を配置した事業所で6月以上機能訓練指導に従事した経験を有する者に限る。)(以下「理学療法士等」という。)を1名以上配置していること。</p> <p>(イ) 機能訓練指導員等が共同して、利用者ごとに個別機能訓練計画を作成し、当該計画に基づき、理学療法士等が計画的に機能訓練を行っていること。</p> <p>(ウ) 個別機能訓練計画の作成及び実施においては、利用者の身体機能及び生活機能の向上に資するよう複数の種類の機能訓練の項目を準備し、その項目の選択に当たっては、利用者の生活意欲が増進されるよう利用者を援助し、利用者の選択に基づき、心身の状況に応じた機能訓練を適切に行っていること。</p> <p>(エ) 機能訓練指導員等が利用者の居宅を訪問し、利用者の居宅での生活状況を確認した上で、個別機能訓練計画を作成すること。また、その後3月ごとに1回以上、利用者の居宅を訪問した上で、当該利用者の居宅での生活状況とその都度確認するとともに、当該利用者又はその家族に対して、個別機能訓練計画の進捗状況等を説明し、必要に応じて個別機能訓練計画の見直し等を行っていること。</p> <p>(オ) 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p> <p>イ 個別機能訓練加算(Ⅰ)ロ 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>(ア) ア- (ア) で配置された理学療法士等に加えて、専ら機能訓練指導員の職務に従事する理学療法士等を指定地域密着型通所介護を行う時間帯を通じて、1名以上配置していること。</p> <p>(イ) ア- (イ) から (オ) までに掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>ウ 個別機能訓練加算(Ⅱ) 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>(ア) ア及びイに掲げる基準に適合すること。</p> <p>(イ) 利用者ごとの個別機能訓練計画書の内容等の情報を厚生労働省に提出し、機能訓練の実施に当たって、当該情報その他機能訓練の適切かつ有効な実施のために必要な情報を活用していること。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注13 留意事項第2の3の2(11) 平27年厚労告95五十一の四	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
14 ADL維持等加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所において、利用者に対して指定地域密着型通所介護を行った場合は、評価対象期間（ADL維持等加算の算定を開始する月の前年の同月から起算して12月までの期間）の満了日の属する月の翌月から12月以内の期間に限り、当該基準に掲げる区分に従い、1月につき所定単位数に加算する。ただし、次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定しない。</p> <p>ア ADL維持等加算（Ⅰ） イ ADL維持等加算（Ⅱ）</p> <p>※ア ADL維持等加算（Ⅰ） 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。 （ア）評価対象者（当該事業所又は当該施設の利用期間（（イ）において「評価対象利用期間」）が6月を超えるものをいう。以下同じ。）の総数が10人以上であること。 （イ）評価対象者全員について、評価対象利用期間の初月（以下「評価対象利用開始月」）と当該月の翌月から起算して6月目（6月目にサービスの利用がない場合については当該サービスの利用があった最終の月）においてADLを評価し、その評価に基づく値（以下「ADL値」）を測定し、測定した日が属する月ごとに厚生労働省に当該測定を提出していること。 （ウ）評価対象者の評価対象利用開始月の翌月から起算して6月目の月に測定したADL値から評価対象利用開始月に測定したADL値を控除して得た値を用いて一定の基準に基づき算出した値（以下「ADL利得」）の平均値が1以上であること。 あること。 イ ADL維持等加算（Ⅱ） 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。 （ア）「ADL維持等加算（Ⅰ）」の基準に適合するものであること。 （イ）評価対象者のADL利得の平均値が2以上であること。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注14 留意事項第2の3の2(12) 平27年厚労告94三十五の四 平27年厚労告95十六の二	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
15 認知症加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所において、別に厚生労働大臣が定める利用者に対して指定地域密着型通所介護を行った場合は、認知症加算として、1日につき所定単位数に加算する。ただし、共生型地域密着型通所介護を提供した場合の費用を算定している場合は、算定しない。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。 ア 「1.従業者の員数」(1)又は(2)看護職員又は介護職員の員数に加え、看護職員又は介護職員を常勤換算方法で2以上確保していること。 イ 指定地域密着型通所介護事業所における前年度又は算定日が属する月の前3月間の利用者の総数のうち、日常生活に支障を来すおそれのある症状又は行動が認められることから介護を必要とする認知症の者の占める割合が100分の20以上であること。 ウ 指定地域密着型通所介護を行う時間帯を通じて、専ら当該指定地域密着型通所介護の提供に当たる認知症介護の指導に係る専門的な研修、認知症介護に係る専門的な研修、認知症介護に係る実践的な研修等を修了した者を1名以上配置していること。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める利用者は次のとおり。 日常生活に支障を来すおそれのある症状又は行動が認められることから介護を必要とする認知症の者</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注15 留意事項第2の3の2(13) 平27年厚労告95五十一の五 平27年厚労告94三十五の五	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
16 若年性認知症利用者受入加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所において、若年性認知症利用者(初老期における認知症によって要介護者となった者をいう。以下同じ。)に対して指定地域密着型通所介護を行った場合は、若年性認知症利用者受入加算として、1日につき所定単位数に加算する。ただし、認知症加算を算定している場合は、算定しない。 ※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。 受け入れた若年性認知症利用者ごとに個別の担当者を定めていること。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注16 留意事項第2の3の2(14) 平27年厚労告95十八	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
17 栄養アセスメント加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、次に掲げるいずれの基準にも適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所が、利用者に対して、管理栄養士が介護職員等と共同して栄養アセスメント(利用者ごとの低栄養状態のリスク及び解決すべき課題を把握することをいう。以下同じ。)を行った場合は、栄養アセスメント加算として、1月につき所定単位数に加算する。ただし、当該利用者が栄養改善加算の算定に係る栄養改善サービスを受けている間及び当該栄養改善サービスが終了した日の属する月は、算定しない。 ア 当該事業所の従業者として又は外部との連携により管理栄養士を1名以上配置していること。 イ 利用者ごとに、管理栄養士、看護職員、介護職員、生活相談員その他の職種のもの(以下「管理栄養士等」という。)が共同して栄養アセスメントを実施し、当該利用者又はその家族に対してその結果を説明し、相談等に必要に応じ対応すること。 ウ 利用者ごとの栄養状態等の情報を厚生労働省に提出し、栄養管理の実施に当たって、当該情報その他栄養管理の適切かつ有効な実施のために必要な情報を活用していること。 エ 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注17 留意事項第2の3の2(15) 平27年厚労告95十八の二	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
18 栄養改善加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、次に掲げるいずれの基準にも適合しているものとして市長に届け出た、低栄養状態にある利用者又はそのおそれのある利用者に対して、当該利用者の低栄養状態の改善等を目的として、個別に実施される栄養食事相談等の栄養管理であって、利用者の心身の状態の維持又は向上に資すると認められるもの(以下「栄養改善サービス」という。)を行った場合は、栄養改善加算として、3月以内の期間に限り1月に2回を限度として1回につき所定単位数に加算する。ただし、栄養改善サービスの開始から3月ごとの利用者の栄養状態の評価の結果、低栄養状態が改善せず、栄養改善サービスを引き続き行うことが必要と認められる利用者については、引き続き算定することができる。 ア 当該事業所の従業者として又は外部との連携により管理栄養士を1名以上配置していること。 イ 利用者の栄養状態を利用開始時に把握し、管理栄養士等が共同して、利用者ごとの摂食・嚥下機能及び食形態にも配慮した栄養ケア計画を作成していること。 ウ 利用者ごとの栄養ケア計画に従い、必要に応じて当該利用者の居宅を訪問し、管理栄養士等が栄養改善サービスを行っているとともに、利用者の栄養状態を定期的に記録していること。 エ 利用者ごとの栄養ケア計画の進捗状況を定期的に評価していること。 オ 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注18 留意事項第2の3の2(16) 平27年厚労告95十九	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
19 口腔・栄養スクリーニング加算	<p>(1) 別に厚生労働大臣が定める基準に適合する指定地域密着型通所介護事業所の従業者が、利用開始時及び利用中6月ごとに利用者の口腔の健康状態のスクリーニング又は栄養状態のスクリーニングを行った場合に、口腔・栄養スクリーニング加算として、次に掲げる区分に応じ、1回につき所定単位数に加算する。ただし次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定せず、当該利用者について、当該事業所以外で既に口腔・栄養スクリーニング加算を算定しない。※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。</p> <p>ア 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅰ） イ 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅱ）</p> <p>※ア 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅰ） 次に掲げる基準のいずれかに該当すること。 （ア）次に掲げる基準のいずれにも適合すること。 ① 地域密着型通所介護費を算定していること。 ② 利用開始時及び利用中6月ごとに利用者の口腔の健康状態について確認を行い、当該利用者の口腔の健康状態に関する情報（当該利用者の口腔の健康状態が低下しているおそれのある場合にあっては、その改善に必要な情報を含む。）を当該利用者を担当する介護支援専門員に提供していること。 ③ 利用開始時及び利用中6月ごとに利用者の栄養状態について確認を行い、当該利用者の栄養状態に関する情報（当該利用者が低栄養状態の場合にあっては、低栄養状態の改善に必要な情報を含む。）を当該利用者を担当する介護支援専門員に提供していること。 ④ 算定日が属する月が、次に掲げる基準のいずれにも該当しないこと。 （一）栄養アセスメント加算を算定している又は当該利用者が栄養改善加算の算定に係る栄養改善サービスを受けている間である若しくは当該栄養改善サービスが終了した日の属する月であること。 （二）当該利用者が口腔機能向上加算の算定に係る口腔機能向上サービスを受けている間である又は当該口腔機能向上サービスが終了した日の属する月であること。 ⑤ 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。 （イ）次に掲げる基準のいずれにも適合すること。 ① 療養通所介護費を算定していること。 ② （ア）②及び③に掲げる基準のいずれにも適合すること。 ③ 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p> <p>※イ 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅱ） 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。 （ア）地域密着型通所介護費を算定していること。 （イ）次に掲げる基準のいずれかに該当すること。 ① 次に掲げる基準のいずれにも該当すること。 （一）ア-（ア）-②の基準に適合すること。 （二）定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。 （三）算定日が属する月が、栄養アセスメント加算を算定している又は当該利用者が栄養改善加算の算定に係る栄養改善サービスを受けている間である若しくは当該栄養改善サービスが終了した日の属する月であること。 （四）算定日が属する月が、当該利用者が口腔機能向上加算の算定に係る口腔機能向上サービスを受けている間及び当該口腔機能向上サービスが終了した日の属する月ではないこと。 ② 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。 （一）ア-（ア）-③の基準に適合すること。 （二）定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注19 留意事項第2の3の2(17) 平27年厚労告95五十一の六 平12年厚労告27 第五号の二	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B



項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
20 口腔機能向上加算	<p>(三) 算定日が属する月が、栄養アセスメント加算を算定している又は当該利用者が栄養改善加算の算定に係る栄養改善サービスを受けている間である若しくは当該栄養改善サービスが終了した日の属する月であること。</p> <p>(四) 算定日が属する月が、当該利用者が口腔機能向上加算の算定に係る口腔機能向上サービスを受けている間及び当該口腔機能向上サービスが終了した日の属する月ではないこと。</p> <p>② 次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>(一) ア- (ア) -③の基準に適合すること。</p> <p>(二) 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p> <p>(1) 地域密着型通所介護費について、別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出て、口腔機能が低下している利用者又はそのおそれのある利用者に対して、当該利用者の口腔機能の向上を目的として、個別に実施される口腔清掃の指導若しくは実施又は摂食・嚥下機能に関する訓練の指導若しくは実施であって、利用者の心身の状態の維持又は向上に資すると認められるもの(以下「口腔機能向上サービス」という。)を行った場合は、口腔機能向上加算として、当該基準に掲げる区分に従い、3月以内の期間に限り1月に2回を限度として1回につき所定単位数に加算する。ただし、次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定しない。また、口腔機能向上サービスの開始から3月ごとの利用者の口腔機能の評価の結果、口腔機能が向上せず、口腔機能向上サービスを引き続き行うことが必要と認められる利用者については、引き続き算定することができる。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。</p> <p>ア 口腔機能向上加算 (I)</p> <p>次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>(ア) 言語聴覚士、歯科衛生士又は看護職員を1名以上配置していること。</p> <p>(イ) 利用者の口腔機能を利用開始時に把握し、言語聴覚士、歯科衛生士、看護職員、介護職員、生活相談員その他の職種の方が共同して、利用者ごとの口腔機能改善管理指導計画を作成していること。</p> <p>(ウ) 利用者ごとの口腔機能改善管理指導計画に従い言語聴覚士、歯科衛生士又は看護職員が口腔機能向上サービスを行っているとともに、利用者の口腔機能を定期的に記録していること。</p> <p>(エ) 利用者ごとの口腔機能改善管理指導計画の進捗状況を定期的に評価していること。</p> <p>(オ) 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p> <p>イ 口腔機能向上加算 (II)</p> <p>次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>(ア) 「ア_口腔機能向上加算 (I)」に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>(イ) 利用者ごとの口腔機能改善管理指導計画等の内容等の情報を厚生労働省に提出し、</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注20 留意事項第2の3の2(18) 平27年厚労告95五十一の七	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
21 科学的介護推進体制加算	<p>(1) 地域密着型通所介護費について、次に掲げるいずれの基準にも適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所が、利用者に対し指定地域密着型通所介護を行った場合は、科学的介護推進体制加算として、1月につき所定単位数に加算する。</p> <p>ア 利用者ごとのADL値(ADLの評価に基づき測定した値をいう。以下同じ。)、栄養状態、口腔機能、認知症の状況その他の利用者の心身の状況等に係る基本的な情報を、厚生労働省に提出していること。</p> <p>イ 必要に応じて地域密着型通所介護計画を見直すなど、指定地域密着型通所介護の提供に当たって、アに規定する情報その他指定地域密着型通所介護を適切かつ有効に提供するために必要な情報を活用していること。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注21 留意事項第2の3の2(19)	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
22 サービス種類相互の算定関係	<p>(1) 利用者が短期入所生活介護、短期入所療養介護若しくは特定施設入居者生活介護又は小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護若しくは複合型サービスを受けている間は、地域密着型通所介護費は、算定しない。</p> <p>(2) 利用者が一の指定療養通所介護事業所において、指定療養通所介護を受けている間は、当該指定療養通所介護事業所以外の指定療養通所介護事業所が指定療養通所介護を行った場合に、療養通所介護費は、算定しない。</p>	1 算定していないか。	報酬告示別表2の2注22	1 算定が不適正である。	C
		1 算定していないか。	報酬告示別表2の2注23	1 算定が不適正である。	C
23 事業所と同一建物に居住する利用者又は同一建物から通う利用者に対する取扱い	(1) 地域密着型通所介護費について、指定地域密着型通所介護事業所と同一建物に居住する者又は指定地域密着型通所介護事業所と同一建物から当該指定地域密着型通所介護事業所に通う者に対し、指定地域密着型通所介護を行った場合は、1日につき所定単位数から減算する。ただし、傷病その他やむを得ない事情により送迎が必要であると認められる利用者に対して送迎を行った場合は、この限りでない。	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注24 留意事項第2の3の2(20)	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
24 送迎を行わない場合の減算	(1) 地域密着型通所介護費について、利用者に対して、その居宅と指定地域密着型通所介護事業所との間の送迎を行わない場合は、所定単位数から減算する。	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2注25 留意事項第2の3の2(21)	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
25 サービス提供体制強化加算	<p>(1) 別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所が利用者に対し指定地域密着型通所介護を行った場合又は別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして市長に届け出た指定療養通所介護事業所が利用者に対し指定療養通所介護を行った場合は、当該基準に掲げる区分に従い、地域密着型通所介護費については1回につき、療養通所介護費については1月につき、次に掲げる区分に応じて所定単位数を加算する。ただし、次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定しない。</p> <p>※別に厚生労働大臣が定める基準は次のとおり。</p> <p>ア 地域密着型通所介護費を算定している場合</p> <p>(ア) サービス提供体制強化加算 (I)</p> <p>次のいずれにも適合すること。</p> <p>① 指定地域密着型通所介護事業所の介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合が100分の70以上である又は指定地域密着型通所介護事業所の介護職員の総数のうち、勤続年数10年以上の介護福祉士の占める割合が100分の25以上であること。</p> <p>② 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p> <p>(イ) サービス提供体制強化加算 (II)</p> <p>次のいずれにも適合すること。</p> <p>① 指定地域密着型通所介護事業所の介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合が100分の50以上であること。</p> <p>② 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p> <p>(ウ) サービス提供体制強化加算 (III)</p> <p>次のいずれにも適合すること。</p> <p>① 指定地域密着型通所介護事業所の介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合が100分の40以上であること又は指定地域密着型通所介護を利用者に直接提供する職員の総数のうち、勤続年数7年以上の者の占める割合が100分の30以上であること。</p> <p>② 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2ハ注 留意事項第2の3の2(25) 平27年厚労告95五十一の八	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B

項目	基本的考え方	観点	関係法令等	評価事項	評価
26 介護職員処遇改善加算	<p>イ 療養通所介護費を算定している場合  (ア) サービス提供体制強化加算(Ⅲ)イ  次のいずれにも適合すること。  ① 指定療養通所介護を利用者に直接提供する職員の総数のうち、勤続年数7年以上の者の占める割合が100分の30以上であること。  ② 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。  (イ) サービス提供体制強化加算(Ⅲ)ロ  次のいずれにも適合すること。  ① 指定療養通所介護を利用者に直接提供する職員の総数のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合が100分の30以上であること。  ② 定員超過利用・人員基準欠如に該当していないこと。</p> <p>(1) 別に厚生労働大臣が定める基準に適合している介護職員の賃金の改善等を実施しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所が、利用者に対し、指定地域密着型通所介護を行った場合は、当該基準に掲げる区分に従い、令和6年3月31日までの間、次に掲げる区分に応じて所定単位数に加算する。ただし、次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定しない。  (1) 介護職員処遇改善加算(Ⅰ)  「2_所要時間による区分の取扱い」から「25_サービス提供体制強化加算」までにより算定した単位数の1000分の59に相当する単位数  (2) 介護職員処遇改善加算(Ⅱ)  「2_所要時間による区分の取扱い」から「25_サービス提供体制強化加算」までにより算定した単位数の1000分の43に相当する単位数  (3) 介護職員処遇改善加算(Ⅲ)  「2_所要時間による区分の取扱い」から「25_サービス提供体制強化加算」までにより算定した単位数の1000分の23に相当する単位数</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2二注 留意事項第2の3の2(26) 平27年厚労告95五十一の九	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B
27 介護職員等特定処遇改善加算	<p>(1) 別に厚生労働大臣が定める基準に適合している介護職員等の賃金の改善等を実施しているものとして市長に届け出た指定地域密着型通所介護事業所が、利用者に対し、指定地域密着型通所介護を行った場合は、当該基準に掲げる区分に従い、所定単位数に加算する。ただし、次に掲げるいずれかの加算を算定している場合においては、次に掲げるその他の加算は算定しない。  (1) 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ)  「2_所要時間による区分の取扱い」から「25_サービス提供体制強化加算」までにより算定した単位数の1000分の12に相当する単位数  (2) 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅱ)  「2_所要時間による区分の取扱い」から「25_サービス提供体制強化加算」までにより算定した単位数の1000分の10に相当する単位数</p>	1 適正に算定しているか。	報酬告示別表2の2ホ注 留意事項第2の3の2(27) 平27年厚労告95五十一の十	1 算定が不適正である。 2 算定が不十分である。	C B